

<p>2023 年 4月 20 日</p>	<p>日仏社会学会ニュース</p>	<p>No. 58 日仏社会学会事務局</p>
---------------------------	-------------------	-----------------------------

<記事>

1. 笹川日仏財団の研究助成が決定しました。
2. 研究例会について
3. 2023 年度日仏社会学会大会について
4. 大会「自由報告」の募集について
5. 『日仏社会学会年報』（第 35 号）への投稿論文等の募集について
6. 新入会員のご紹介
7. 会費納入のお願い

1. 笹川日仏財団の研究助成が決定しました。

研究課題「コロナ禍のフランスにおける医療・看護系学生の医療への関わりに関する社会学的研究」（研究代表者 荻野昌弘）が笹川日仏財団の研究助成に採択されました。笹川日仏財団に提出した研究目的は以下の通りです。

申請目的：コロナ禍のフランスにおける医療・看護系学生が、いかに医療機関等に動員されたかについて調査を行い、危機におけるフランス社会の対応がどのようなものであったかについて明らかにする。

事業の目的・意義：新型コロナウイルスは、2020 年以來、世界中に広がったが、そこで見られた危機対応の方法と戦略は、国によって大きなちがいが見られた。このちがいは、個々の社会の特徴を浮き彫りにする。日仏社会学会では、こうした視点から、フランスにおける医療・看護系学生の医療行為への動員に着目した。フランスではコロナ禍において、著しく医療従事者が不足していたため、医療・看護系学生が動員されることになった。新型コロナウイルスの流行に関して、マクロン大統領がウイルスとの「戦争 (la guerre)」という表現を用いたことから、学生の医療行為への関与は、学徒動員の様相を呈することになった。一方、日本では、国立大学医学部において、大量の PCR 検査が可能であるにもかかわらず、それがほとんど利用されていないなど、新型コロナウイルス感染者の治療に積極的に動いていたとはいえない。そこで、日仏会館日仏共同研究助成を得て、フランスでは、即座に国立教育機関が学生も含め、新型コロナウイルス対応の機関として機能した際に、実際に医療行為に従事した学生 4 名にインタビュー調査を行った（2022 年 9 月実施）。この成果を踏まえて、発展的に調査研究を継続する。

2. 研究例会について

日仏社会学会研究例会を開催します。奮ってご参加ください。

日時：2023年7月29日（土）15：00－16：30

場所：関西大学梅田キャンパス 705 室（大阪府大阪市北区鶴野町 1 番 5 号）

※なお、オンラインとのハイブリッド開催いたします。ご希望の方は事務局 (nichifutsusocio@gmail.com) にお知らせください。

テーマ：「フランスにおける階層移動：グランゼコールの門戸開放の試みを中心に」

報告者：山崎晶子（法政大学／パリ第 8 大学）

コメンテーター：藤本昌代（同志社大学）

司会：大前敦巳（上越教育大学）

3. 2023 年度日仏社会学会大会について

2023 年度の日仏社会学会大会は、10 月 28 日（土）早稲田大学関係各位のご協力により開催する運びとなりました。シンポジウムのテーマは「経済的なものと社会的なもの」を予定しております。大会のスケジュールおよびシンポジウムの具体的な内容、報告タイトル等については 9 月末発送予定のプログラムでお知らせいたします。奮ってのご参加をよろしくお願いいたします。

4. 大会「自由報告」の募集について

本年度も、下記要領によって、2023 年度日仏社会学会大会の「自由報告」を募集いたしますので、多数ご応募ください。

- 1) 内 容 (1) フランス社会学に関するもの
(2) フランス社会（社会思想史を含む）に関するもの
(3) 日仏社会に関する広義の比較研究
- 2) 報告時間 20 分（プラス 5 分間の質疑応答）
- 3) 申込方法 e-mail で、報告テーマ、氏名、所属を事務局までお知らせください。
e-mail：nichifutsusociogmail.com
- 4) 応募締切り 2023 年 7 月 27 日（木）

5. 『日仏社会学会年報』（第 35 号）への投稿論文等の募集について

2023 年度発行予定の『日仏社会学会年報』（第 35 号）への論文等の投稿を、以下の要領で募集いたします。また、会員業績を年報に掲載いたしますので、2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日までの会員業績を、2024 年 3 月 31 日までに下記のメールアドレスにご送付の程よろしくお願いいたします。さらに、フランスに関連する会員の著書の書評の依頼も随時受け付けています。

1) 原稿締切り：2024年3月31日

2) 原稿送付先：〒719-1197 岡山県総社市窪木111 岡山県立大学保健福祉学部
近藤理恵宛（『日仏社会学会年報』編集事務局）

電話：0866-94-2192 e-mail：kondo@fhw.oka-pu.ac.jp

3) 投稿規定

- 1) 本誌に発表する論文等は、(1) フランス社会学に関するもの、(2) フランス社会（社会思想史を含む）に関するもの、(3) 日仏社会に関する広義の比較研究のうち未発表のものに限る
- 2) 使用言語は日本語、フランス語、または英語のいずれかとする。
- 3) 論文は 400 字詰め原稿用紙換算 50 枚程度。
(図表等を含め約 20,000 字。フランス語または英語の場合は約 5,000 語)
- 4) 研究ノートは 400 字詰め原稿用紙換算 30 枚以内。
(図表等を含め約 12,000 字。フランス語または英語の場合は約 3,000 語)
- 5) 資料紹介、書評および内外研究動向は 400 字詰め原稿用紙換算 20 枚以内。
(約 8,000 字。フランス語または英語の場合は約 2,000 語)
- 6) 論文、研究ノートには仏文または英文タイトルを付し、論文には 300 語以内の仏文または英文の要約、研究ノートには 200 語以内の仏文または英文の要約を添付する。
- 7) 原稿はワープロ原稿とし、打ち出し原稿 3 部に CD-R を添えて、簡易書留にて送付のこと。なお、原稿を送付する際に、著者名（英文付記）と所属、著者の連絡先（住所、電話、ファックス、Eメールアドレス）を書いた用紙 1 枚も送付のこと。
- 8) 図表については版下作製に別途費用を要する場合には実費負担とする。
- 9) 引用文献等の記述形式は以下のとおりとする。
 - 本文には注の番号のみを記載し、引用文献、参考文献等は末尾に置く。
 - 著書の場合には、著者名、書名、出版社名、出版年、引用頁を記載する。
 - 論文の場合には、執筆者名、論文名、掲載誌名、巻号、発行機関、発行年、引用頁を記載する。
- 10) 投稿論文等については、編集委員会が委嘱する審査委員による審査を行い、審査結果に基づいて掲載の可否を決定する。審査委員が指示した論文等の修正が出版期日に間に合わなかった場合、その審査は次年度に継続される。
- 11) 本誌に掲載された論文等の著作権は、本学会に属するものとする。ただし、著者が後日、自分の論文等を著書等に編集する場合は原則としてこれを認め、著作権料を徴収しないものとする。
- 12) 本誌に掲載された論文等は原則として電子化し、公開するものとする。

6. 新入会員のご紹介

古川直子（長崎総合科学大学）、寺前建佑（中央大学大学院）

7. 会費納入のお願い

2023 年度もお早めに会費を納入くださいますようお願いいたします。2020、2021、2022 年度会費未納の方は、これも併せて納入ください。2022 年度の会費を納入されていない場合、年報 34 号が発送されません。納入が確認できしだい、発送させていただきます。会費は 5,000 円（院生会員は 3,000 円）です。院生会員の方は、同封の振替用紙の通信欄に、所属大学院を記載してください。

日仏社会学会事務局

〒662-0891 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1 - 1 5 5

関西学院大学社会学部内

TEL/FAX 0798-54-6953

nichifutsusocio@gmail.com

郵便振替口座 00960 - 6 - 278804 口座名 日仏社会学会
